

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 21号

2019年9月26日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

9月26日、水産研究・教育機構より第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期後半（10～12月）の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、中央水産研究所がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構（<http://www.fra.affrc.go.jp/>）

中央水産研究所（<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>）

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」（<http://abchan.fra.go.jp/>）

今後の見通し（2019年10～12月）

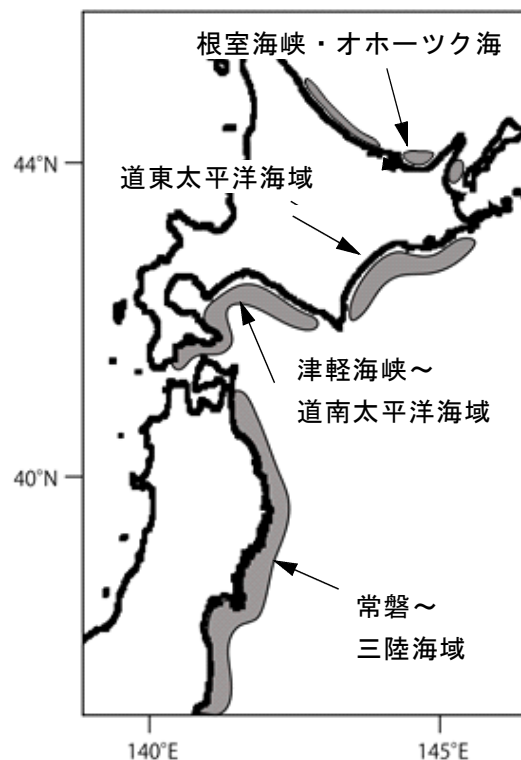
対象魚種：スルメイカ

対象海域：太平洋（常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域）

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2019年級群）

- ・道東太平洋（いか釣り、底びき網）：来遊量は前年並に少ない。漁場形成は散発的で明瞭な主漁期はない。魚体は前年より小さい。
- ・根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）：来遊量は低水準ながら前年を上回る。明瞭な主漁期はない。魚体は前年より小さい。
- ・津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。魚体は前年より小さい。
- ・常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）：来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場となる。魚体は前年より小さい。



※文中の「前年」は2018年のことです。

・漁況は、8月～9月上旬に実施した太平洋第1次漁場一斉調査（函館水試調査分は浮魚ニュース第14号参照）及び釧路水試による道東太平洋イカ類南下期資源調査（浮魚ニュース第15号参照）の結果と、各港の漁獲状況から予測されました。

・太平洋の群れの来遊量は前年に続き低い水準と考えられます。一方、太平洋からオホーツク海への回遊は前年より多いと考えられ、9月上旬までのオホーツク海の漁獲量も前年を上回っています。

（釧路水産試験場調査研究部 TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）